

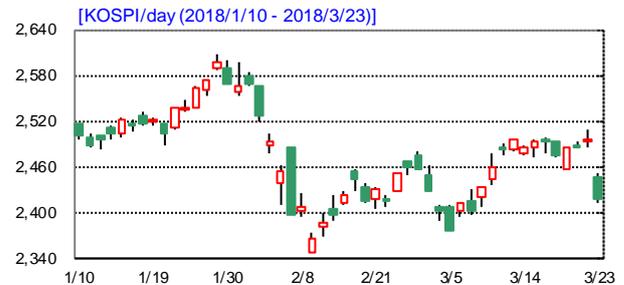


【韓国】 総合指数は週間で3.1%安と3週ぶり反落、今週は米中関係の懸念続くか

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で3.1%安と3週ぶりに反落。一進一退が続けた後、終盤に大幅下落となった。週前半は20-21日に開催された米連邦公開市場委員会（FOMC）を前に様子見ムードが広がったものの、安値圏では押し目買いが入る展開。同イベント通過後の22日はサムスン電子など主力ハイテク株が買われ、一時的に節目の2500ポイントを回復するなど1カ月半ぶりの高値を付けた。ただ、23日は米中の貿易摩擦への懸念が高まる中、リスクオフの動きが加速。指数は3%を超える下落率となり、結局、約2週間ぶりの安値圏で週の取引を終えた。今週は米中貿易問題の進展をにらみ、神経質な値動きか。国内では27日に消費者信頼感指数、29日に景況判断、30日に鉱工業生産などの経済指標が発表される予定。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は0.6%高と反発、今週は外部要因の不透明感でもみ合いか

先週の動き／今週の展望

RTS 指数は週間で0.6%高と反発。週序盤はマイナス圏で推移する場面が多かったものの、原油相場の上昇に伴い週末にはプラス圏に浮上した。22日は一時1283.10ドルまで上値を伸ばしたが、米中の貿易戦争懸念で売り優勢となり、前日比でマイナスに転落。23日にはロシア中央銀行が主要政策金利を予想通り0.25%引き下げ、7.25%とした。今回の利下げは今年2度目で、会合では世界的に保護主義がリスクとして台頭しているとの認識が示された。その上で今後も追加利下げを実施し、「中立的」な金融政策への移行を年内に完了させる意向も表明した。これを受け、マイナス圏で推移していたRTS指数はプラス圏に浮上。前日比0.20%高の1261.44ドルで週の取引を終了した。今週は外部要因に不透明感が強く、もみ合いか。

▼指数チャート

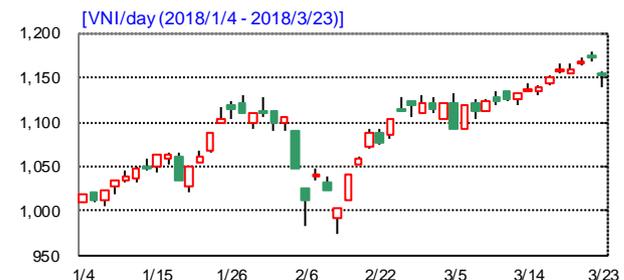


【ベトナム】 VN 指数は0.3%高と6週続伸、今週はセンチメント良好で続伸か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.3%高と小幅に6週続伸。総じて買い優勢の展開となった。ただ、22日の米国株式市場でリスクオフの流れが強まって急落したことで、VN 指数は週末に前日比でマイナスとなり、週間での上げ幅が縮小した。週明けにプラスで寄り付いたVN 指数は、11年ぶり高値を前週に続き更新し、前週から9営業日続伸。22日に1180.44ポイントまで上昇し、過去最高値を11年ぶりに更新した。23日は前夜の米国株式市場で主要3指数が2%超の大幅続落となったことを受け、一時的に前日比2.9%安と急落したが、終盤に買い戻され、前日比1.6%安の1153.59ポイントで取引を終了した。高値警戒感があるもののセンチメントは良好で、今週も続伸か。

▼指数チャート



【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.5%安、今週は貿易摩擦に対する米中の動向が焦点

ジャカルタ総合指数は週間で 1.5%安と 4 週続落。週半ばの上昇を除き、さえない値動きが続いた 1 週間だった。週初の 19 日はアストラ・インターナショナルが指数下落をけん引し、終値ベースで約 2 カ月半ぶりに 6300 ポイントを割り込むと、20 日はさらに下値を広げて 6 営業日続落。一方、21 日は反動で買われて前日比 1.1%高と反発したが、勢いは続かず、22 日に反落すると 23 日も続落した。22 日に発表された政策金利は市場の予想通り 4.25%に据え置かれた。今週は経済指標の発表が少なく、貿易摩擦に関する米中の動向が株式相場を左右する展開か。30 日はグッドフライデー（聖金曜日）のため休場。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スเตรツタイムズ指数は 2.6%安、今週は 3500 ポイント回復に期待

スเตรツタイムズ指数は週間で 2.6%安と 3 週ぶりに反落。週末の大幅下落が響いた。週初の 19 日は金融株が売られて終値で 6 営業日ぶりに 3500 ポイントを割り込んだものの、20 日は反動で買われて、5 営業日ぶりに反発。21 日は FOMC 閉会後の声明発表を目前に控えた様子見で前日からほぼ横ばいだったが、22 日に金融株が指数下落をけん引すると、23 日は米中の貿易摩擦激化への警戒感から売り込まれ、場中に一時、3400 ポイントを割り込み、終値では前日比 2.0%安と 3 日続落して引けた。今週は 26 日に発表される 2 月の鉱工業生産に対する市場の反応が焦点。30 日はグッドフライデーのため休場。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.0%安、今週は中央銀行が金融政策決定会合を開催

SET 指数は週間で 1.0%安と反落。総じて軟調な値動きだった。週初の 19 日はエネルギー株が売られて、指数は終値で 6 営業日ぶりに 1800 ポイントを割り込み、続落してスタート。21 日は 2 月の貿易統計（通関ベース）で、貿易収支が 3 カ月ぶりに黒字を回復したことが好感されて、この水準を回復したが、その後は買い材料に乏しく週末まで続落して引けた。今週は 28 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催するほか、30 日には 2 月の鉱工業生産と 1 月の小売売上高が発表される予定。前週末の NY ダウが大幅下落したことが逆風となる中、経済指標が市場予想を上回れば株式相場の支援材料になる。

▼指数チャート

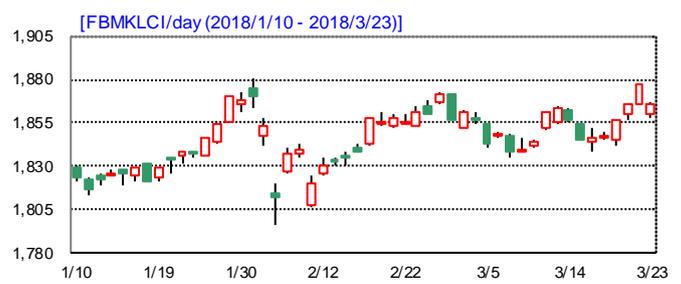


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.0%高、物価上昇圧力の低下を好感

クアラルンプール総合指数は週間で 1.0%高と続伸。週末の下落を除き、堅調に推移した。週初の 19 日は前週末の NY ダウが続伸した流れを引き継ぎ、買い優勢でスタートすると、その後も優良株が指数上昇をけん引。21 日に発表された 2 月の CPI 上昇率は前年同月比 1.4%と 16 年 10 月以来の低い伸びを示した。22 日は前日までの米 FOMC で、市場予想通りに利上げが決定されたものの影響は小さく、為替相場での米ドルに対するリンギ高が好感されて指数は 5 営業日続伸。ただ、23 日は世界的な株安に連動し、反落して取引を終えた。今週は重要イベントが少なく、外部要因に左右される展開になりそうだ。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。